

研究主題に迫るために

「主体的・対話的で深い学びに向かう授業」モデル

「授業改善の視点・具体的な方策」カード (A~O)

第12期(平成30年度・令和元年度)

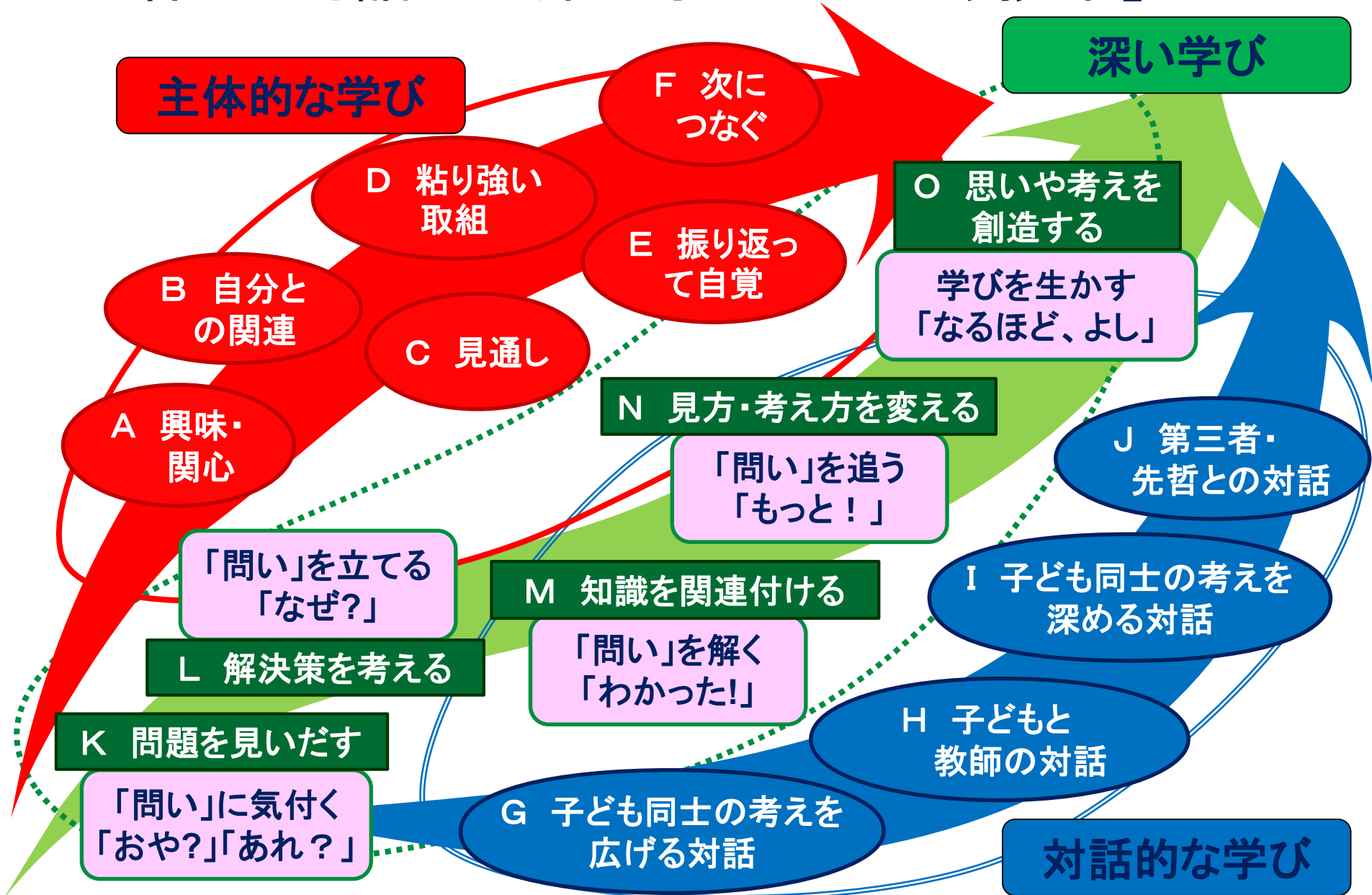
第13期(令和3・4年度)

第14期(令和5・6年度)

第15期(令和7・8年度)

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために統一大会を翌年に延期し、研究推進も1年間延期した。

「主体的・対話的で深い学びに向かう授業」モデル



「主体的な学び」

A 興味・関心

子どもに学ぶ意欲を持たせるために、知的
好奇心が高まるような導入を工夫する。

具体的な方策

- ア 「びっくり」「何でだろう」「どうしたらいいの」と感じさせる導入の工夫
- イ 既習事項と関連付けて「問い」が起こる導入の工夫
- ウ 意識の「ずれ」が感じられるような教材の開発
- エ 固定観念がくつがえるような教材の開発

自分のこととして学習問題を捉えられるような働き掛けをする。

具体的な方策

- ア 単元導入前の子どもの問題意識の醸成の工夫
- イ 子どもの「問い」や「思い」から学習課題・問題をつくる工夫
- ウ 子どもが追求したくなるような学習課題・問題の工夫

解決への見通しを持たせるための、学習計画を立てさせる。

具体的な方策

- ア 授業のねらいを意識した学習課題の工夫
- イ 予想や仮説を立てる時間の保障
- ウ 自分の理解度(分からなさ)の視覚化
- エ 自分なりの解決方法の選択・決定
- オ 個々の子どもに応じたヒントカードの準備
- カ 学習の流れがつかめるような学習手順の提示
- キ 子どもと目標や評価の共有

問題意識を高め学習の必然性を持たせる。

具体的な方策

- ア 多様な情報を生かして学習を進めることができる環境の整備
- イ 学習の流れと理解の進み具合の視覚化
- ウ 中間発表における視点の工夫
- エ 少し頑張れば乗り越えられる課題・問題の設定
- オ 自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫
- カ 他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面の設定

「主体的な学び」

E 振り返って自覚

学習したことを生きてはたらくようにするための振り返りをさせる。

具体的な方策

- ア 自分の考え方と生き方を関連付ける工夫
- イ 実生活と結びつける工夫
- ウ 社会参画につなげる工夫
- エ 自分の成長を自覚させる工夫
- オ 自己評価の方法の工夫

実生活や次の学習につなげる意識を持たせる。

具体的な方策

- ア 他教科等との関連
- イ 学んだことの他者への発信
- ウ 学んだことが生かせるような場づくり
- エ 新たな課題の設定

「対話的な学び」

G 子ども同士の考えを広げる対話

対話をする目的と相手を意識させる。

具体的な方策

- ア 話し方・聞き方（ルール・マニュアル）の工夫
- イ ジグソー法など多様な学習形態
- ウ 対話の目的の意識化
- エ 立場と根拠・理由を明確にした発表
- オ 多様な表現手段（ICTや紙媒体等）での説明
- カ 支持的風土の確立

対話の相手としての教師の支援を工夫する。

具体的な方策

ア 支援の工夫

- ・ 対話を促す板書の構造化や教材の活用 など

イ 教師の言葉掛けの工夫

- ・ 抽象化⇔具体化の思考を促す切り返しや言い換え など

ウ 意図を明確にした支援の工夫

「対話的な学び」

I 子ども同士の考えを深める対話

個人、ペア、グループ、全体などの学習形態を工夫し、自分の考えを深めさせる。

具体的な方策

- ア 学習形態の計画的な活用（個人・ペア・グループ・全体）
- イ 教師の立ち位置、目線、表情
- ウ 1人1台端末の効果的な活用
- エ 他者の発言をもとにした自分の意見の構築

計画的な単元構成をする。本物に触れ合わせる。場の設定と必要感を持たせる。

具体的な方策

- ア 必要感・目的意識の持たせ方
- イ 計画的な単元構成
- ウ ゲストティーチャーの活用
- エ 先哲の考えに触れる場の設定

「深い学び」

K 問題を見いだす

「問い」に気付く。

「おや？」 「あれ？」

具体的な方策

- ア 学習内容と日常生活・社会とのつながりを考えさせる工夫
- イ 身近な社会の課題や既習事項との違いから生まれる課題など、解決の必要感が持てる課題の設定
- ウ 協働して解決する価値や意義のある課題の設定
- エ 子どもの認識や見方のずれを大切にされた問題や課題の設定
- オ 疑問点を共有し、課題解決の方法を想像させる工夫

「深い学び」

↳ 解決策を考える

「問い」を立てる。
「なぜ？」

具体的な方策

- ア 子ども自身が問いを立てる場の設定
- イ 子どもに自らの考えを持たせ、自覚させる工夫
- ウ 子どもの考えや認識を揺さぶる問い返し
- エ 学習課題・問題を追究するための見通しを持たせる工夫
- オ プラス思考になり、もっとやりたいと思う課題の提示
- カ 個々の興味・関心、価値観や課題意識に応じた問いの設定

「問い」を解く。
「わかった！」

具体的な方策

- ア 考えの根拠を明確にした説明
- イ 「ああ、そうだったのか」と納得するまとめ方
- ウ 子ども自身の言葉でのまとめや表現
- エ 考えの違いや深まりが見えるようなノートや板書の工夫
- オ ICT機器の効果的な活用

「問い」を追う。
「もっと！」

具体的な方策

- ア 個人から大きな概念へと視野を広げさせる発問の工夫
例えば、「私は」→「私たちは」→「地域」→「国」→「世界」
- イ 思考ツールを活用し、思考を可視化することで、多様な考えを整理・焦点化したり新たな問いを持たせたりする工夫
- ウ 子どもの考えをゆさぶる働き掛けの工夫
- エ 多様な見方・考え方に気付かせる話し合い活動の工夫
- オ 次の課題が生まれる振り返りの工夫と共有

「深い学び」

○ 思いや考えを創造する

学びを生かす。
「なるほど、よし」

具体的な方策

- ア 学習したことを他教科等の学習や生活の中で生かしたり、発展させたりする場の設定
- イ 学びの成果を地域などで発信したり実践したりさせる工夫
- ウ 各教科等の学びや社会とのつながりを実感させるカリキュラム・マネジメント（教科等横断的な学習の推進）
- エ ICTの活用による他校・社会・海外との交流